

SANS FRONTIERES vol.5

はじめに 医歯薬コース5期生達も多くの難関大学医・歯・薬・獣医・理工学部等への合格を果たし本校を巣立っていきました。彼らの3年間の努力はどのような方向へ進んでいっても必ずや将来への大きな財産となってくれると思います。

在校生の諸君も先輩方の今後の健闘を祈るとともに彼らが残してくれた Go for it! の精神を真摯に継承して行って下さい。

ところで医歯薬コースの1期生達は現在大学4年次が終わるところです。ご存じの通り、医、歯、薬学部は4年次に CBT という客観知識試験や OSCE という臨床対応試験が課され、それに合格しないと臨床実習（いわゆるポリクリ）へ進めません。私としては1期生達の動向が大いに気になっていましたが、それも杞憂のようでした。先輩達は次々に CBT, OSCE をクリアして実習に入るという連絡を寄せてくれています。また、久しぶりに彼らに会ってみるとその成長ぶりには驚嘆せざるを得ません。大学で鍛えられた4年間で確実に彼らに医師、歯科医師、薬剤師の卵としての風格を与えてくれているのだと関心させられます。数年のうちには茨城県のような医療機関で彼らが活躍する姿を目にすることができるでしょう。

ただ、彼らには医師や薬剤師を志した最初の情熱と高校時代の希望に輝く眼差しをいつまでも持ち続けてほしいと願わずにはられません。それがどんなにナイーブだと思われようとも。

医歯薬講演会 第2回医歯薬講座が開かれました。茨城県医師会副会長、小川南病院院長の諸岡信裕先生をお迎えし、様々な内科疾患についてのお話を伺いました。聞いたことはあっても、詳しく知らなかった疾患についてわかりやすく説明していただきました。また、健康を自分で守る大切さについてもお話いただき、生徒たちも大いに勉強になりました。



総合学習発表会(2年生)

10月末、2年生による総合学習の発表会がおこなわれました。

タイトルは自由に設定するという条件で4月から各班に分かれ、調べ学習を行いました。各班のタイトルは「裁判について」「FIFA WORLD CUP ～その歴史とその栄光～」

「MAKE UP ～キレイの秘密～」「食品添加物～着色料の長所・短所」「ロスチャイルド家について」「人工甘味料」「日本の動物虐待について」「天使～有名な三大天使～」でした。昨年の経験を活かし、1年生の時よりさらに成長を感じさせるプレゼンテーションでした。



総合学習発表会(1年生)

1年生による総合学習の発表会が、2月20、22日におこなわれました。今回の1

年生のテーマは「医療」。医療に関わる話題を班ごとに取り上げて調べ学習を行いました。先の2年生の発表を参考に、試行錯誤しながらスライドや発表原稿を作りました。

「感染症」「再生医療」「臓器移植」「薬剤耐性」「アレルギー」「ストレス」「体内時計」など、様々なテーマについてプレゼンテーションが行われました。「アロマセラピー」では、実際にアロマオイルの香りを体験させるなど、それぞれ工夫を凝らして発表していました。2年生からは鋭い質問もあり、調べることやそれを他人に伝えることのおもしろさ、難しさを知ることができたようです。



茨城県医師会主催講演会

平成21年11月28日(土)

第31回茨城医学会

第20回地域医療分科会

地域が医師を育てる～医師不足解消法～

茨城県医師会理事 鈴木邦彦先生の司会の下、筑波大学の地域医療教育学教授の前野哲博先生から、「教育を通じた地域医療貢献」を演題として、筑波大学と茨城県の連携で行われている地域医師循環システムの神栖市での事例などが詳しく講演されました。また茨城県の周産期医療の現状や女性医師のキャリアアップなど茨城県の医療の現状についての講演が行われました。県内の医師や筑波大学医学部の学生とともに本校生徒20名程が参加し茨城県の医療についての実状を知ることができ、茨城県の医療従事者になるにあたっての志気を高めたようです。

大学出張授業 平成22年2月26日(金) 5～6限

今回は千葉科学大学の先生方に本校に来て授業をしていただき、生徒達は高校ではできないより専門的な内容の授業を受けることができました。

講義内容：

1. 身近にある薬草と毒草 使い方次第で紙一重 木島先生
2. 新しい薬はどのように開発されるか 浜名先生
3. 記憶のメカニズム 森先生

～生徒の感想から～

アルツハイマーの話について、発症すると普通の人と比べて、脳の体積が少なくなってしまうことに驚いた。臨床実験については、自分で新しい薬が使えるようになるまでに医療関係の人たちで数多くの検査が行われていることは、安全に使うためと知り、本当に感謝したいと思った。ジェネリック医薬品は安く使って使うにはいいけれど、特許のある薬は時間や手間をかけるだけあって安心できると思った。

偽薬の話はとてもおもしろかった。病院からもらう薬は本物であると信用すると思うし、「病は気から」という言葉は本当にあると思った。

小人症の人は成長ホルモンを投与するということだが、そのホルモンによってガン細胞の働きを促進してしまうため、投与できない人もいるという。そのような人は小さいままを選ぶということ。病気が別の病気を抑えてくれるというのは、薬を投与する側も慎重にならなくてはならないと思った。今後、今は治らない病気がどこまで治るようになるのか、とても楽しみにすると同時に、私もそれに貢献できるといいなと思っている。

医学部入試情報 国の医学部定員増により、2007年には、7625人だった医学部の募集定員が、2010年には8846人と増加しました。茨城県では、本県出身者を対象とした茨城県地域枠の設置が認められており、現在、以下の通りになっています。

筑波大学7名、東京医科歯科大学2名、東京医科大学5名、杏林大学1名、獨協医科大学医学部医学科(10名、卒業後、北関東3県、埼玉県及び福島県で医師として医療に従事する意志のある者)。

大幅な定員増により、やや易化する大学も見られましたが、依然合格ラインは他の学部系統と比べ非常に高く、難関であることに変わりはありません。現在、本校の3年生は自由登校中ですが、前期、後期試験での合格に向けて、気持ちを引き締めて努力しています。

本校でも、筑波大学および福島県立医科大学、獨協医科大学の医学部医学科にすでに合格しており、来年度の学習合宿で、卒業生から新入生への講演が予定されています。



修学旅行 12月1日～5日の4泊5日で九州へ修学旅行に行きました。福岡～長崎～

熊本～鹿児島と九州を縦断するコースを巡り、九州の歴史、文化、自然等を感じてきました。福岡の太宰府天満宮では来年の入試に向け入念にお参りをしている生徒達もいました。長崎、知覧では戦争の悲惨さや恐ろしさを改めて学び、平和への祈りを献げていました。雲仙、阿蘇、桜島では雄大な自然を目の当たりにし、ただ感動し皆ひたすらカメラのシャッターを押していました。また、医歯薬コースの生徒にとって勉強になったのは「如己堂」でした。「如己堂」は自ら被爆しながらも亡くなるまで放射線の研究を続けた、永井博士の家を再現した建物です。わずか2畳ほどの小さな家に家族3人で暮らし、原爆に関する医学的な研究と多くの著作を残しました。現在はその裏手に永井隆記念館が設立されています。バスの中でも、ガイドさんから永井博士の話を約20分程披露され、皆真剣に耳を傾け聞き入っていました。



(太宰府天満宮)



(仙巖園からの桜島)

推薦図書・DVD

書籍

○『医療のこと、もっと知ってほしい』 山岡淳一郎著 (岩波ジュニア新書)

○『体験派医療人マガジン Lattice』 (医学部受験専門予備校 YMS 内 Lattice 編集部)

DVD

○『ディア・ドクター』 監督：西川美和 主演：笑福亭鶴瓶 (バンダイビジュアル)



行事予定

- | | |
|-----------|-----------------------|
| 3月11, 12日 | 駿台マーク模試(2年生) |
| 3月12日 | 解剖実習(2年生 生物選択者) |
| 3月19日 | 1日HR (1, 2年生 日本科学未来館) |
| 3月20日 | 終業式 |
| | 大学合格者体験談発表会 |
| 3月25～31日 | 春期課外 |